華陽皮相

下卷

農商務省
圖書
和
第一三六五號
共三冊

太政官文庫
和書門
一〇八八三號
二冊
二二二函
二二一架
三

内閣文庫
和書類
一〇八八三號
三冊
一五四函
二〇架

内閣文庫
番號 和 10883
冊數 3 (2)
函號 154 420

国立公文書館
National Archives of Japan

泰堌頭屯營

吳門曳練

内閣文庫
明治十三年購求
五八八三番

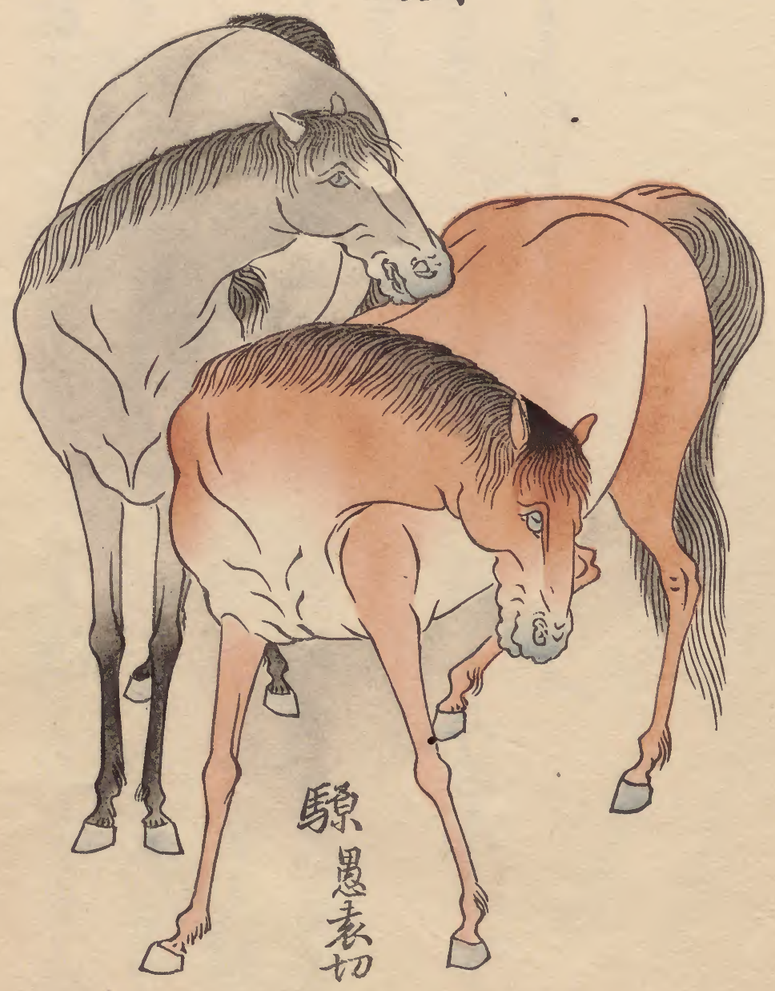
国立公文書館
National Archives of Japan

騮(ゲン)と爾雅(ジヒヤ)に騂(シン)馬の腹白きを騮とす毛詩に駟騮(シゲンオクク)彭々
也とあり禮に周人は赤を尚ぶ故に騮は參(サン)とす色なり
陸佃曰へる騮の字を緣(ゲン)の省くに仍りて赤を色とす
漢書に一人を緣といへば騮も清緯(セイガウ)色にして赤きを色とす
き也駟馬乃ち色を赤きとなすべし照らしたる騮を廣毛
とゝぶとゝいそれ鼠の毛をたらんにあらず麻毛(ブツ)の屬也毛也
らど栗毛に屬也毛也
白顛(テン)は一名的盧(テキロ)と云戴星(タイセイ)馬といひ月顛(ゲツダイ)とも名く
和名抄にはうづくろひと名くひと白毛あるをいふ爾雅
に的顙(テキサウ)に白顛也といへば又的顙とも云ふ月顛は莊子にも

陸佃云白顛も亦上棄也周禮に東帛匹馬以奉とゝる卓(タク)上
して九馬也れに注に卓は卑(ヒ)的盧也とゝ先に白顛と
云ふ九馬とは注に云ふ也といふ注也的盧(テキロ)と的吻(テキフン)とは
相混して的盧は吉凶に不利也といふ馬の額に白毛
を的盧と唯上に旋(セン)毛あり又白ばを的吻といふ
に周禮の文已に明らかに注に有車輦(リンク)有馬白顛とい
ふ義あり也昔晉の先主的盧に騎(リ)て溪水に墮(オチ)
しとゝ也の四澄に云ふ先主の溪水に墮(オチ)る時
馬に告て曰へと今日急なり奴(ツトメ)どいあるべしとゝるその言
は何とゝ云ふ如く忽(チヒト)一躍(トビ)に三丈ばかりとびはねて

絵小玉の部と兎れ出めてまぶ果して必ずしぶる也支馬
を月の精とと此馬月精部ふひよ葉くはぐ凶相とすべ
きじや的吻ハ旋毛りくい白毛の鼻のようまるはて色
凶相ありて主に不利也といふ世説ようんを又按ず國憲
家献ようと口中ま黒あるを衛鳥と名け白額の口小入と
極雁といふ一名と的盧とすると又灣口浪ぎり嘴衛鳥極
雁ハ皆善相のあしぶるを倣ふ顛を星ぶふひとを伊べし

顛



駿 愚表切

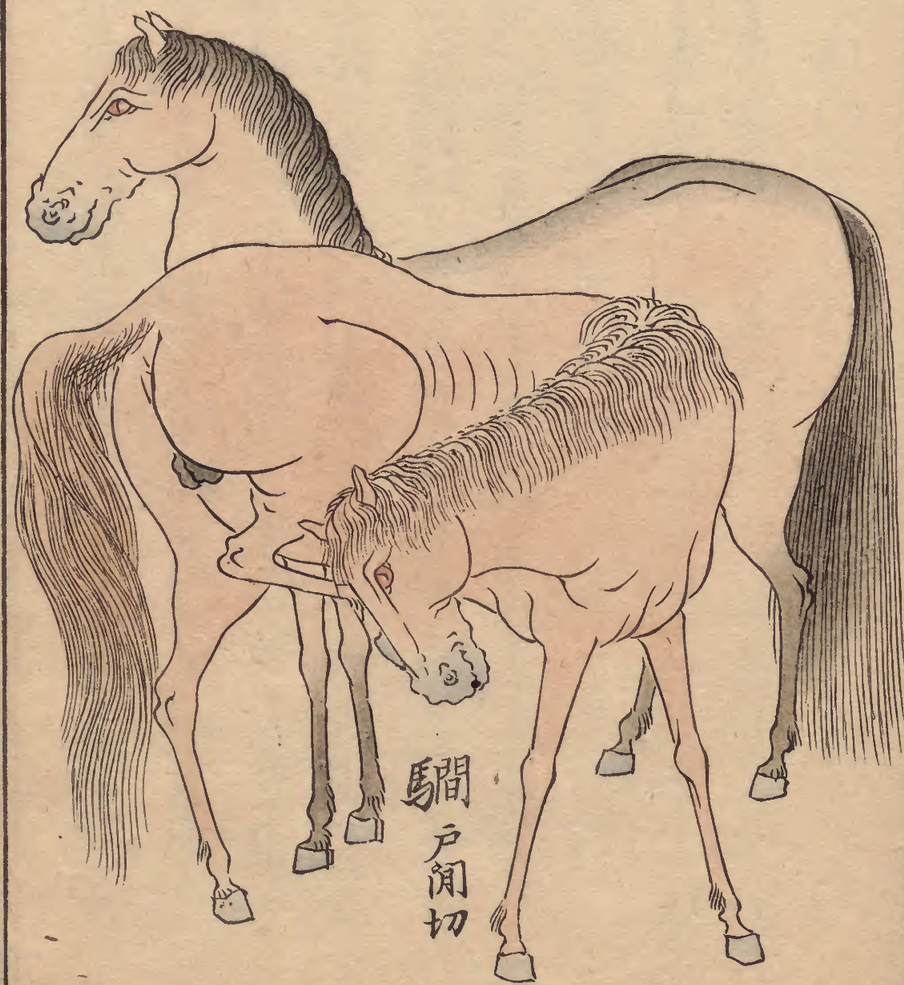
騶(イツ)ハ驥馬ノ白蹄ナルカ又ハ雅ニシテ毛アリ駘(ケイ)ノ首章ニ有騶有皇ト称ヒ皆馬色ノ貴ブ所ナリト雖モ脾間ヲ以テ字或ハ騂ハ化色ヲ以テ称ス然ルニ和名抄施ビ白ヒ色ヲ以テ名ヲ騶(フン)ハ尾末ノ白キカ如ク雅ニシテ小尾ト尾筒(シヨウ)トヲ兼ヒ白キニ尾筒トヨブ

駣ハ小雅ニ騊駼ノ脊ヅクリ黄ナリトモ注文ニハ馬
ノ豪骭ナリトヘリ詩傳ニ騊駼ト豪骭トモ京國爾
雅ニハ今ノ白色ニシテ後ノ脛ニ毛色ニ黄トイヘリ今ノ
藤黄ハアヲビ微ニ赭色ニ帶テ明黄ナリ称ゼラ
類也ヒラビ俗ニイヘラ黑ヒラ毛ノ類ナルベシ
騊ハ馬ノ脊ヌキ曲リトイヘリ音集韻ニハ
相法ニハ脊曲ヲ駑馬ト云文腫ノヨロヒワルキヲ駑ト名
ヒ惜物志ニハ耳ノヨロヒ低ヒ駑トイヘリ廣
韻ニハ駑或ハ駑ニ作ル駑ノ音防

驔ハ馬の豪骭なりと詩傳ハ毛詩の増韵ハ豪骭白と
又豪ハ毫と通じ毫ハ毛の骭ハ骭なり白毛ありて白毛ハ骭の
骭ハ脚胫膝下の名也とあるなり説文ハ駱と豪骭と
この驔を駱馬黄脊とあり爾雅ハ駱を四散皆白と次
散ハ膝下也とあり爾雅ハ駱を四散皆白と次
驔ハ爾雅ハ駱の駱ハ詩傳の驔ハ説文ハ
駱ハ爾雅ハ面顙皆白也と鄭玄周禮の注ハ駱ハ
不純也とあり顔師古漢書の注ハ駱ハ青馬也とあり
玉篇ハ駱ハ馬ハ白毛也と説文の説の一なり
ざるとも如此二馬ともに名園ハ未詳

驒は馬の豪骨なるを請傳に見へ博韻に豪骨白と
あり豪は毫と通じ毫の骨なるを白と説けるは誤
骨は御覽孫下の色白なりと説文に駓と豪骨とを
分て驒を駓馬黄脊と云へ赤推は駓と西散皆白と決
散は脽下也とあるに赤推の駓は脽と説文に
駓は赤推少青面類皆白也とあり鄭玄周禮の注に駓は
不純也とあり顏師古漢書の注に駓は青馬也とあり
玉篇に駓は白黑雜毛也と説あるは説の一なり
さらに如此二馬ともに本國にあるべし

国立公文書館
National Archives of Japan



尓雅ニ一目白ト騙ト云ヒ一目白ハ魚ト云フトアリ注ニ
有騙ノ字ハ眼ト云フ魚也環眼馬トハ爾雅ノ注ニ
みな馬ハ最下ナルモノ也其眼魚ニ似タリ故ニ魚ヲ
名ヲトリテ和名ニハ鯛馬トヨブ或ハ騙ニ作リ又
騙ニ作ル亦鯛魚ノ字ハ鯛ヲ出セリ
ノ魚ヲトハイ一ヨミ尚ク鯛ヲ和名ニヨリテ
ヨブベシ

馬(シュ)ハ赤雅ナリ膝ヨリ上皆白ク後馬(シュ)ト名ケ又後ノ右足
白キヲトモ馬ト名ク毛一章ナラシメテ一字ニ兼義ヲ
ノ時ハ分ツヤ疑アルベシ今点ヅラク四足白キモノ
ヲ惟馬ト称シテ別ツ赤雅ノ文惟ノ字雅ヲ
通用スルハ雅緯ノ義ヲトリテ四足白ク惟馬ト名ケ
ルトイフ後ヲモ下文ニ惟駱ヲアリテ義ヲ分ケレバ
沙汰セラルベシ和名惟馬ヲ縣白トヨム
縣(ケン)ハ赤雅ナリ白達素(スニ)ヲ注シ漫鬣(マンラフ)徹歯(テシ)ヲ引ク赤ハ色ノ名ナリ
ノ俗称也素ハ鼻莖(ビケイ)トイフ白ク顙(ガク)ヨリ鼻ノ間ヲ通(トヲリ)ル也
駒ハ赤雅ナリ後ノ両足白キヲイフト字或ハ駒ヨリ作ル

雒は詩傳より黒身白鬣とし爾雅は本載陸德明の音義
に雒は青海本或は駱より似るとのたまへば雒に似る借音に
て駱より似るとも云ふなれ果して駉の詩一章
の間に有駱とのたまひ雒とのたまへば詩傳何とても一を白馬
黑鬣とせ一を黑身白鬣といふを云るやたらに雒より
似る故とせんも馬異なれば音同じ尚附つみて
ちら詳べきなれば是疑の爲し今按り雒のことと
為て名その食よりて馬に名け古音或は誤也
同じかるべきなるべし後
駿は爾雅海の右足白なりとあるは詩の駿
騏馬とのたまへば爾雅の海の右足白なるとは同じ易り
震為馬足とのたまへば陸佃も一足紲とのたまへる義なるべし
邢昺は四足白の説なるは是何をもて説卦の義と的
知すべきや詩傳をもて何をもて駿馬は如ど一
足白なるなるや且陸佃馬駿と雜じるとも已
り詳なれば四白の馬をいふ何ぞや是
うるべし
啓は爾雅に前の右足白なりとあるは詩傳に衛
侯未獻其乘馬曰啓服とのたまへば牡頭の注に啓服とは
の名也とあるべくは右足白啓とて

股馬とする級小啓後と
て淺乃考り備へ

前足皆白を驥（ケイ）といひ後の右足白を踦（キ）といひ後の
右足白を驤（ジヤウ）といふ倶に水雅より出たり説文り
踦（キ）は一足也や須也と又傳の角之踦（スヲ）之皆足義也
按ずるに漢書の驒驥（ケイ）は駏驉（キヨ）の類りにて毛色ふ
たつ別義なり

示雅曰蹢皆白と首みていとこゝを註り俗ろ〳〵
曰踏雪馬也と次後世少く騶と名く玉篇に曰蹄
皆白ていと色也蹢と廣雅に蹄也と注也
示雅り尾白く駼といと良駿と名く
して山海經にみえたり
示雅に白州に驤ありと見名注に州い竅也とあ
り馬の尾白と名く

埤雅に黄騂と黄なるとをもて黄を六馬に上色也とす
る故に詩に有驃有黄といひ列子に牝而黄驪為牡天
下之馬也とあり黄と牡なるをもて上色なりく驃は牡なる
色なり又黄馬の尾白を驃と名くと集韵に云字
或は驃に作るか
説文に駮は赤鬣縞身千里如雪とす博物志に縞は黄
白の馬なりといへり山海経に吉驢といへり昌黎也周文王
の時犬戎の獻ぜしものなりとあり
馬に小あらびに唐書に貞觀十三年三月己巳廐御廐の馬
白なる朱鬣の駒を産せりとあり

駁ハ毛色ノ斑(マダラ)なるをいふ和名ぶち馬といふ詩ハ皇駁(クワウハク)を馬とかりて傳ハ駒良ハ駁(ハク)とす公蹄ハ駒ノ處をいふ

あり白ノ毛なる也といふ紫也とも黒と白とをまじる故ハ玉篇ハ駁ハ雜色(サル)なり花(ナラ)をいふ也ハ駁と上色とハ世俗ハ云ハ習ハ二色ノ馬ハ生性質(セイシツ)を純良なるゆゑとされ理勝ノ伝也古ハ國君駁馬ハ乘る赤

ものを馬ノ上色也と陸佃いへり

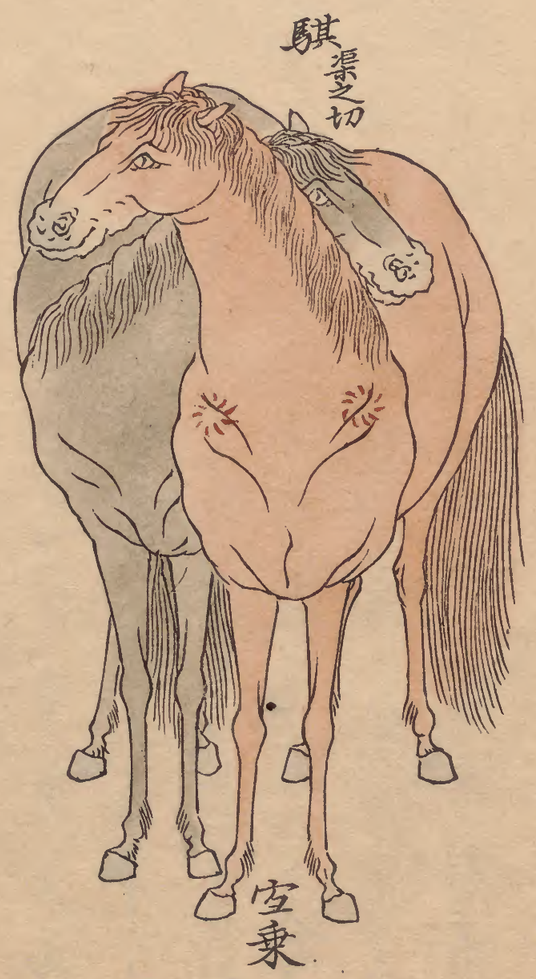
裏騎(テウサン)ハ小馬也又玄駒といふと雅ハ黒(クロ)ノ馬也とされ黒下馬(カ)といふ也ハ玄狗ハ果下馬ハ高サ濊國(クワイ)より出る魏志

小みの朝鮮ハ高ハ五尺ハ字書に騭(ドウ)といふ駟(ゲイ)といふ皆名也

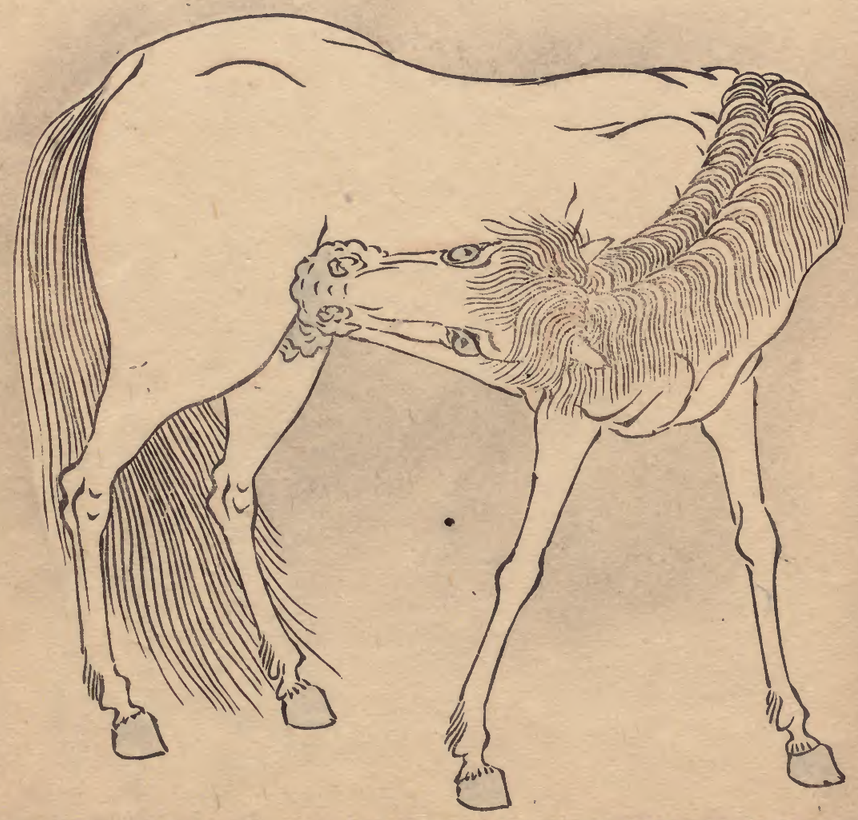
駒

說文小馬一歲なるを駒と云二歲を駒と云徐鉉曰
五尺已上なるを駒とす千里駒と駒と名く廣韻に
三歲を駣と云る本草に駣と芳非の反なりと
周官廋人の職に教駣攻駒とあり本草に注るに
似り八歲を駒と云陸佃云馬八歲にして壯なり故に
八に从ると古語に七駿八白と云又竟地に駒を
駒と或は齠小駒と俱に巨九の反なりと集韻に見えたり又
集韻に白馬を駵と云徒回の反黑馬を驚と任
煙案の反なり駭馬を駭と云丘膳の反なり

毛詩傳ハ青黑ヲ騏トイフ又陸佃云騏ハ蒼艾色
ヲ騏ト按ニ詩ノ其弁伊騏トイフハ皮弁ヲイフ也皮
弁一名ヲ騏弁ヲモイフ又食ノ騏馬ニ似タルガ故也
騏ハ和名ニ黑ノ毛ヲヨブ又騏ヲ連錢驄トスルハヲノ
ヲ〻別義
示雅ニ旋毛ノ而在ニ腹ノ龍ノ馬ノ名トセルモノ旋毛ノ
膺小立ヲ宜乘トイフ一名ハ官廄馬トイフ旋毛財後ニ
ニ減陽ヲ名ケ幹ニアルハ茀方ヲ名ヲ特ニアルハ
闋廣ヲ名ク字或ハ駿驥ヲ低ル



周禮小馬八尺以上を龍とすとあり爾雅に八尺以上を駿と
いへり又絶有力を駿といへり周禮校人職に六馬とあり
ちゝく種馬あり戎馬は軍事に用ひる馬なり
こゝは即駿也甚字事に猛猶也又爾雅に戎事とは
力と辭也といへり馬は力あるを駿といふ而して史記
に良馬を龍種と稱するを二義をかねるなり
里乃駒を龍駒といひ又駃騠と名く生まれて七日にて
母より越るとぞ又玉篇に馬は高大なるを駿と名く



駂鶾（バウカレ）は蕃（バン）中の大馬也と廣韻に見へたり近時蕃（バン）
船の載来れるの大馬に其類なるべし又駿（シウ）と名く疎
鳩の及りと又駿騶（シウソウ）とも云へり上は張流の及りも下は所鳩の
及りと皆蕃馬の称也

駂鶾 上蒲滋切 下侯肝切

附録

華陽皮相既に成て謄寫と屋代生に需む生代言に
よりて驪黄物色ゆ図説あることを知明遂に就て
書と備ふと伝得めの黒澤氏名ハ定幸俗称と本立助と
いへ自叙に云特野尚信と図もと乃ち特図
地を伝を詳にするゆ示雅に下引形已に〻ゆく〻を伝
云ゆ〻ゆ地ゆ〻れども我書既に成て體裁を亦同し
ゆ〻ず稿と更るに煩し且説の同じゆ〻ゆる参考
の得益ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻但黒澤氏乃書ハ和名鈔と
主として字と求めて漢と故に故ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻の多

〻宋ハ西土の名義と同く和名に故ゆ〻ゆ〻ゆ〻と
ゆ〻爾如に図同じゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻今和名の同じゆ〻
の〻ゆ〻ゆ〻異ゆ〻と葦て附録乃首に
騅 図説に和名鈔に拠て鼠毛と〻ゆ〻葦毛と〻と按に
和名鈔に漢書鈔と引く騅ハ鼠毛也と〻ゆ自註に葦毛
と〻ゆ〻ゆ〻二説也と〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ

髦鬣（ボウリャウ）ふようて名くもつ毛色はとくに淳（シヰ）く名づけ
ざうとあるべきもいふべし○白驄（ハクソウ）　圖說は是に同じ毛色は
驄と白よりして好て和名鈔は黄驄（クワウソウ）ありて白驄あり
余（ガ）書初より不載○黄驄（クワウソウ）　圖說は尾花毛とす和名
鈔と按小黄驄を葦花毛と圖説のごとく而也又和名鈔
小白を紀和紀毛にて驄とみ太古乎乃字方とて圖説に
黄驄の一名とすはあしき也○騜（タ）　圖說は是とも毛とし和名
鈔は是鈔は又連錢葦毛とし毛二説をあげる也圖説
は一説は連鈔あり毛とすとくらべ合て漢語鈔は騜と虎
毛とし是はまと僊（ビウデン）僊也今の俗は漢黑（クンコク）ゆく斑駁（ジンバク）あるとと
ら毛とよぶ物と名とそなはれば古の俗はこれ而あるべし○
騅（スイ）驄（クワウ）　東國のよる所ともくらべ故は者とてのをず和名と
書紀だけ毛とし是は信じべくらべ○驄（ソウ）驄（クワウ）　又初より
不載和名と葦毛とし是はひだりと毛とよぶ葦は一
道の黑あるばかりて名くに二馬皆毛くらべ○栗驄（ヤクソウ）　驄は青
白の間の色也あるもれは赤色と加まぜ黄馬とある故は載
圖説は山島あり毛といふと次赤惟和名は抜て字とと求め字
あるべきれば臆は製也○驊（クワ）　圖說は唯赤毛とし是其人
書くに韓人李（リコウ）果なるものは抜て馬色ととくに渠（カレ）栗毛馬
をとして赤馬と言て毋て栗毛は赤毛と称ぶ如是は

何ぞ和名を付とゝ成せんや○騂（サイ） 図説に栂（カウジ）の毛のごとし
余いまゝ毛のあつ余六畜くらうる西あり今遠（ニハカニ）よりを
あらくめぐ○白驊 図説に赤毛に赤驊は和名
鈔に月毛白驊は何の拠を引くべし初より不載○騂 図説
に鹿毛とあり是漢語抄の説也其人の韓
人の黒毛馬と指て騮（ヨリドコロ）字と書とる成を字と定む
といへども韓人は赤馬成りて騮とは黒深氏はそ
の黒黛成るべく鹿毛とあるを若草（ヒトヘ）に黒毛とあるの
を指て騮といまぐ也の韓人は越高と号ぶべしとも
○騭（テツ） 図説に黒斑毛とあり是成は唐人和名鈔に騭成

のとゝ引とあり鈔の烏騮（ウリウ）とは牽海（ケンキヤウ）也○驃（ヒヤウ） 図説に驃と
白斑毛とあり赤驃と赤鹿毛とする又漢語鈔の説（モウサツ）を
受也驃は毛斑（ハン）の称なり黒毛とは似るべくもあらず
唐の時赤驃と桃花馬とす和雅の説は驃（ト）と桃花とを
とも成（ヒヤウ）も驃とも成るなり濃淡（ノウタン）あり・ばかりとは也
○駱駝（ラクタ） 図説に毛なぐらの毛と毛を拠を詳に
とつゝどもこゝぐらの名今は於く信中の称也ば候
らばるべし駱の字成るべし切に毛と称ぶ所也
うべ○騎（ユ） 図説に黒毛と成ぶ也騎は黒馬也也
あるべくらく今は治平の黒色に彩する也べ○

紫騮 図説ハ漢語抄ハ騮ト鹿毛トス 漢諸抄ハ騮ト鹿毛トス 馬
騮ト黒鹿毛トス 黄騮ハ赤栗毛トス 紫騮ハ黒栗毛ニ
ト皆非也紫騮トハ騮トハ別ナルヨシ山際ノ赤栗
毛トスベシ其色ノ鳥騮ハ黒栗毛ナリ 黄騮ハ赤栗
毛也 図説 膚〻漢語抄ノ 鬱〻漢語抄ニ 従ヒ〻〻 ○騧
図説ハ黄赤毛トス 俗ニ云ヒ毛トスベシ其ノ黄道
ナリテ鳥ノ嘴天ノ似タルニヨリテ義ノ春ノ鬱ラ
ザルベシ 乃西土ノ黄騧ニ同レリ 黄色ニ云ヒ
毛トスル説アリ 抜 ○駰 図説ハ葦花毛トス 今按リ
和名抄ハ桃花馬トスル説ハ葦花毛ノ紅色ナル説ト

黒津氏駰ト桃花馬トハ同名抄ニ云ヒ
トスル小駰ハ紅色ト常ニトナラズ 駰ハ葦花毛ト黄驄ノ
ハ葦花毛ト黄驄ノ
抄ノ桃花ト云ヒシ何ニ駰ハ
彼此ノ説ヒ鬱ル ○驊騮 ○騢 ○驊油馬 ア
糟毛 ○斑騅 騮 ○虎 虎毛 按ニ三馬何ノ説リ
シテ表出シ云ヒ云ヒ余ニ省キテ其ノ文多ク油馬
ト出ト別ニ定義ノ重複ト云ヒ ○騫 図説ハ鹿毛ニ
ヒ云ヒ云ヒ小黑ニ云ヒ公毛色ハ云ヒ云ヒ何ト以
前名ヲ云ヒ ○騧 白黒鹿毛ニ云ヒ図説ノ説ノ説

和名抄ハ草ノ麻毛トイフ馬ノ色ハウツリ毛ナ
ルベシ其ノ称ハ黒喙ヨリ出テ命ジ名ヲ為ルベシ此ニ
ヨリテ馬ノ称ナリ○駮 図説ハ白ク毛ニ白ト和名抄
ニハ俗ニ云ヒ唯ハ毛ニ白ヤマラ毛ヤ
疑ハシ此今ハ俗ニ云ヒ毛ニ白ヤマラ毛ヤ
ノ世ニ云ヒ名ク鵲ノ色也○赭黄馬 図説ハ赤ク
ハ毛ニ白ヤ又和名抄ニハ俗ニ云ヒ駮馬ノ色ハ黄ニ
ナルベシ辯馬トナリ黄驄ト渾ト名ヲ疑ハ
ベシ故ニ宿駮 ヒツキ毛○斑駮
図説ハ白ク毛図説ハ

志ベシ之ヲ以テ係ル○駰 図説ハ白黒ヒキ毛ニ
駰ハ今ク白馬也ヒキ毛ニ
カヒラ毛ニ余ニハ俗ニ云ヒ
スルハ駱ヲ川ノ名ニ云ヒ
ラギニ駱ニ白馬黑鬣ナレバ白駱ニ
ナリ○駒駱又出ル不ヲ
図説ハヒキ毛ニ云ヒ
ナリ易ニ葉馬驢如ト
ド○駱驥又ハ不ヲ
カシ図説ハ鐵馬ト合テ
志ベシ○驪ハ深黑色ニ
疑ハ也○騮 図説

小黑毛云ひとし按ずるに海ほとの馬食あるとそうず和
名を求むべうしゆ○鯛魚圖説よりまさごあとすを它
諸馬の魚と肇ぐ花の魚あるに一まとびのをび黑澤
氏の説よ魚ばさ名とうぶハ駿魚の目よ似るとされ
ものと見ばハまうん圖説の下れ巻ハ白の下ニ身依て名
とる旋毛の下ニ毛旋ると名けるとの説あり而流
鼻繡頂といひ尊白腰花といひ白眉黑身といふの類皆
相法の名目ありて馬色よ依づるあるべ旋毛の名
を壽星といひ酺旋といふ奏瞳といふの類ハ皆相法よ
して相法の名義固ものハ此ばきハ余皆ものと有さ

唯小雅菁に名目あるものを載その和名を白黑白とよ
び白とうひ一色白ハ一行ざるとうび尾の白と尾白を
いひ尾茎の白とを白といふの類別よ京義ものれば
辨を南るど又騅とのをそ牛蒡馬とひ騅ハ牛尾一
角の獸ありるる中はあるべ馬の尾毛まること牛
蒡尾といべ且騅とのをべくハ騶騮騏の類
又するあるべ今そ其類ハ表出ス
小雅よ云騶駔馬ハ野馬也と山海經よ北海よ獸あり
狀馬のごとく騶駔と名くとうるハ字林よ云北狄の良
馬也一ハ野馬とも云と是二物ありて同名也故よ郭

注ノ爾雅ノ文ヲ析ク二名ヲ以テ之レヲ下文ノ駮ヤ騧
騄ヤ六皆馬ノ名ナルベキハ騊駼ハ野馬ナリト釋ス
ルヲ明ラカニセザル故ニ廣韻ノ騧窶上胡瓜反下堅奚反ヲ野馬ニ一名ト
駣蠲上盧谷反下徒谷反トシテ又玉篇ノ驕ト騎トヲ名トスト
又龍驁駿上力鍾反下力竹反トシテ又駿上五可反トシテ又駿青師ヲモシテ
ヲ駣騄ハ馬ノ似ク牛蹄ニシテ駿ニシテ似ク鹿ト
食ス
又神馬ト称ズルモノアリ腰褒ハ神馬ニシテ漢書ノ
四神馬ト騰黄トシテ符瑞圖ノ文ト駮簿ト名
ク九宮ノ紙ノ文駮職收ハ神馬ニシテ玉篇ノ
ヲ

ヲ又白馬朱鬣ナル紙ヲ神馬トシテ禮緯ノ
槖駝ヲ名ク馬ノ類ニシテ鄯善國ノ出ニシテ西域傳ノ
脊上ノ隆肉ノ如クシテ鞍ノ如クシテ一名ヲ封牛トシテ脊上
封ノ如クナルヲ以テ也又駑駘上陟格反下青陌ノ古今注ニ
驢牡馬牝ナレバ豚駑青豚ト生ジ騾ノ又駑駘ヲ産ムト作ル
玉篇ハ驢父牛母ナル紙駑駘トスルハ驢馬ノ
ヲ云ハク長耳ニシテ尾ニシテ健ハ馬ノ及ビ褐白黑ノ三色
ノ毛ニシテ又野驢トシテ遼東ノ出ルトシテ驢ニ似テ
駄ナリト駄騾ハ驢ノ似ク驢ノ騾ニシテ健ニシテ漢書ニ單
于六騾小棄ルトアリ字ヲ贏ノ似ク贏牝馬牡ナ

也ハ駏音巨とうむ駏驉の獸ハ孔叢子ニハ人ニて十り世等を
我土の産而ありれハ國也とべきにあらぶ
其餘馬の名篇ハ多く画國ニハいりがぢ記ニも未雅り
牡馬を騭音質といひ牝馬ハ駜音密といふ注ニ駜ハ草馬也
也又騬ハ似る玉篇ニ牡畜の称なりといふ又小馬ともふ
牝馬ハ常ニハ小なれがなり詩ニ騋牝といふ騋ハ七尺ニ上
の馬也牡ニなりて大なることかくのごとき也を義ニ也
又騾音郎とよび駑音奴とよぶ皆牝馬の称也牡馬を
駏音又といふ
馬鬣を馬冠といふ又騣音子紅といふ字或ハ鬃ニハ作り又

鬣ニ作る又髦といふ曲禮ニハ髦馬といふ注ニハ髦落鬃
鬣也といふたてがみと書そなへざる也馬の長毛を生ず
ハ毛を氂といふ又鞦といふ蕃中ハ毛を騍鞦といふ
を長毛ハとりて名づくべし馬の毛さまざまニハ
面を居駒音準とといふ毛理輪回を旋と旋毛といひ回毛
もいふ倡ニハ小雅ニハ出ぢ馬の項上ハ騏音渠宜とよび毛色
ハ紺音力念と名く頭高を駒音五堂といひ腹幹音肥大を駰と
いふ夜眼を附蟬音と名く走る時股下ハ鳴を鸞音力角といふ
馬の脚外を騻音陟扇といふ也れを玉藻と名く行の遲ま
る ハ歩音段といひ前進せざるハ騁音勢上音卓下音寘といふ真ニ

馳る義 駒丑郢反といひ突きとる騍（カン）といふ馬の腫と駃（チン）丁結反
といひ馬の嚙（カム）と騧（ベキ）音寛といふ馬痛を駄（キ）巨支切といひ腹痛
を騫（ケン）といひ穀（コク）と食して痩せ駿（レウ）上音陵 駹（トウ）下音鄧といふ黄痛
十二種三十六種あり手勢と割（カツ）去する代扇といふ
字或は騸より作る
馬一隻（セキ）と一匹といふと手義一なれども風俗通小馬疲
行小前四足をみな一匹といふ又馬とともに假横長
さ一疋なるを匹といふ古へ韋馬束帛と贈る故
に帛と偶（クウ）して疋といふ又藝文類聚（ゲイモンルイジュ）小馬の光景一匹
乃長さなるを故に匹といふを見て侍いまるとせ

ど文心彫龍（テウ）より古へ車は兩を以て称し馬は匹を以て称
車に住乘あり馬は驂服（サンフク）あるを皆對並代を以て称とその
單（タン）なるを一匹といふは匹夫匹婦の匹乃ちと些ばと
長ぶりとすべし
古来駿馬の名称甚繁し今乃ち所の略挙（リヤクキヨ）と
周穆王八駿 穆天子傳

赤驥　盜驪　白義　踰輪
山子　渠黄　華騮　緑耳

又 拾遺記所載

絶地　翻羽　奔霄　超影

踰輝（ユキ）　超光

秦始皇七馬 古今注

追風　白兎

飛翮（カク）　銅雀

漢文帝九良 西京雜記

浮雲　赤電

紫燕　緑耳

絶塵

唐太宗六駿 唐書

青騅　什伐赤

騰霧（トウム）　挾翼（ケウヨク）

蹀景　追電

晨鳧（シン フ）

絶羣　逸驃（イツヘウ）

龍子　驥駒（リンク）

特勒驃（トクロク）　颯霧紫（サウ）

拳毛騧（ケン クワ）　白蹄烏

又骨利國所獻十驥

騰霜驄（トウ）　皎雪驄（カウ）

決波騮　飛霞驃

翔麟紫（シヤウリン）　奏紅赤（ホン コウ）

玄宗時名馬

玉花驄　照夜白

又大宛國所獻六馬

紅玉聟　紫玉聟

飛香聟　百花聟

凝露驄（ギヤウ）　懸光驄

發雷赤　流金騧

浮雲　飛黃

平山聟　凌雲聟

其後漢末呂布が名馬と赤兎といふ後に関羽これを騎る
蜀の張飛が名馬は玉追といふ又翡翠鳥あり魏の武帝
の騎ると白雇といふ曹植が名馬は驚帆とうぶ唐玄宗
乃三馬は如意騮と神志駿と名く代宗の時に九花虬
はゆる又秦叔寶が馬と忽雷駮と名け郭子儀が馬は
獅子騮とうふ師子とうて名くる隋煬帝に獅子騎あり
梁武帝に玉獅子はゆる姚興が馬を獅子と名く李
白が馬は黄芝と名け鄭訓が駿は撒豆駿とうぶ五代
劉昊が蒙とる不と自立将軍と称し金主完顔亮が
騅と小白耳と號し齊太祖乃騮まる不のもと龍駿

将軍とう龍駿赤とうぶ朱温が馬に一丈烏と号とは
はゆる宋仁宗乃名馬は玉逍遥とうび雲碧駮とうぶ
畢再遇が兗州の家将迪その名馬と黒大蠶と名く元の
時に鳳頭とうふ花蒲川とうふの名馬あり夏明昇が
家に飛越峰と號とうる又杜重威乃馬と吉祥座
と名け景延が胡牀とうぶ又王昶が五馬に名位號る
一は金鞍使者とう一を千里将軍とう一は波遠侯
とう一を渥洼とう一を驥国公とう

此際の毛色は五種十毛乃国を立て葦毛
栗毛と赤毛と黒毛と黄毛と
属し鹿毛糟毛鴾毛を金
を以て毛百毛と駁毛と小と
つを従管領なりも以ても據毛ふ
わたしこふ白馬黄馬の正毛遺してなれば
葦毛ハ驄なり赤毛と青白乃間ふわかれば
東方乃木ふ属すべきも栗毛ハ赤馬なり色赤
なすべしきの紅を南方乃黄毛なるハなれば糟

毛を油馬なると諸毛なること紅毛ハ
皆合毛とふわたしに緊尾毛を脊道ふ紅て
ほとふ白ふ駁毛ハ駁馬也うの毛を深紅
とふ白ふ極荒馬とはなれば西方乃白毛を
なき駁を小ふ属毛を潤乃毛是を
説を世の家作ふ毛いかへふ伝へふを
わたしとなる毛を世乃しるの五種
中毛乃法我ふ傳まする不ふて西土
毛を乃称ハ借毛乃黒
其説のなるなれば連鈴乃称ハなるなり

まるゆ驄とわしゝ毛ゝとゝびゝく烏駿の称よりて
鵲と異なるゝ毛ゝとゝ戴星乃称よりて白額
を呈つきゝゝ駺と尾白ゝゝふの類ゝ彼の名
義ふゝるゝにあゝゝぐゆ且類霜おれ毛ゝとゝのぐふ
はゞゞ五性乃説ふゝゝゝ

跋華陽皮相

衣服在身不知其名是謂之固今夫騙驪
皇駿生厩而不能辨其名可乎澤先生
此擧稗益固非少於余乎何與世之
畫馬者動輒藉口於神駿殊不知形似
且不辨豈渠求氣韻乎況復畫闕
張而不知赤兎月烏將爲識者買一
笑善欲求神駿於華端乎則宜
詳審皮相也故余不辭老耄爲
之揮絹與剞劂亦不同科而復著色以
板印者乎蓋所以名皮相已

信濃木雍書於江戸

黄蒙窩

旭山澤先生著述

芙蓉木先生圖画

浮印
内閣文庫

寛政紀元新鐫

江都　剞劂　關根新兵衛刻
書林　須原茂兵衛梓

国立公文書館
National Archives of Japan

旭山澤先生著述

芙蓉木先生圖畫

寛政紀元新鐫

江都　剞劂　關根新兵衛刻

書林　須原茂兵衛梓

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan